

建築の省エネ化・省資源化と 仕上技術への期待

世界的に、経済活動・生産活動における環境への負荷に対する目が厳しくなっている昨今。とりわけ建築分野では、材料の製造から施工、そして建物の使用、廃棄に至るまで、大量のエネルギー・資源を必要とし、CO₂の排出量も大きい。省エネ化・省資源化は避けられない課題となっている。そうした中で、材料メーカー各社も、多様な切り口で建築の省エネ化・省資源化、ひいては「脱炭素」に寄与する製品の開発を試みている。建築の長寿命化に資するもの、空調など建物運用時のエネルギー使用を抑えるもの、材料製造に必要な資源を工夫したもの、施工時に出る廃棄物を削減したもの等々、そのアプローチはさまざま。

本特集では、建築および建築業の省エネ化・省資源化、CO₂対策の現状とその課題、そして建築仕上分野への期待や製品開発動向などを紹介し、今後の展開を考察していく。

編集部

● インタビュー ● 建築業界における環境対策の現状と今後

説得力のある明確な環境性能データが求められる

フジタ

菅原 玲子氏

— 36 —

建築の省エネルギー・省資源化と 仕上技術への期待

編集部

— 40 —

建築の省エネ化・省資源化に寄与する 建築仕上材・工法

— 43 —